

計画変更に伴う環境影響について
(概要)

令和2年4月

沖縄防衛局

計画変更に伴う環境影響について

【計画変更に伴う環境影響の予測及び評価の基本的な考え方】

- 工事計画の変更による周辺環境への影響について、変更後の工事工程を基に予測。
- 変更後の環境影響の予測結果を、変更前の予測結果及び環境保全の基準等と比較して評価。

※ 環境影響の予測方法については、変更前と同様とするが、参照している基準等が改訂されている場合には、最新の基準等を使用。

【今回の環境監視等委員会における説明の概要】

- これまでの委員会において未提示であった環境影響の予測項目(景観等)について、予測・評価の結果を説明。

➢ 変更後の環境影響の程度は、**変更前と比べて同程度又はそれ以下**との結果。

- 技術検討会の資料の精査の過程で、主要資材の必要量等に関連した資機材運搬車両等の稼働台数等の変更が必要となったことから、**改めてシミュレーションを実施し、環境影響の予測等を行った。**

➢ 稼働台数等の変更の程度は小さく、**今回のシミュレーションにおける予測結果は、前回と同程度。また、環境保全の基準等を満足。**

➢ よって、**今回の予測結果の評価も「変更後の環境影響の程度は、変更前と比べて同程度又はそれ以下」となり、前回と変わらず。**

- これらの環境影響の予測・評価の結果が、変更前の環境保全図書と同程度又はそれ以下であることから、事業者が行う**環境保全措置と事後調査・環境監視調査については、計画変更を踏まえて更新し、変更前の環境保全図書の記載と同等の内容を実施することを説明。**

: 今回の委員会で新たに提示する環境影響の予測項目

: 前回の委員会から引き続き提示する環境影響の予測項目

: これまでの委員会で提示済みの環境影響の予測項目

＜環境影響の予測項目＞		
大気質	騒音	振動
水の汚れ	土砂による水の濁り	地下水の水質
水象	地形・地質 ※	塩害
海域生物	サンゴ類	海藻草類
ジュゴン	陸域動物	陸域植物
生態系 (陸域及び海域)	景観	人と自然との触れ合いの活動の場
歴史的・文化的環境	廃棄物等	

※高波浪時における敷砂(海砂)及び埋立材(岩ズリ)の安定性の検討
→ 現地盤のままのときよりも抑制

【変更後の主要な予測結果・評価】

	景観	人と自然との触れ合いの活動の場	歴史的・文化的環境	廃棄物等
予測項目	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点及び視点場・景観資源・主要な眺望景観・車窓景観の状況 ・主要な眺望景観の変化、圍繞景観の状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との触れ合いの活動の場の分布及び利用環境の改変の程度、人々の活動・利用の変化、アクセス特性の変化 ・施設等の存在及び供用に伴う人と自然との触れ合いの活動の場への影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財等の状況・埋蔵文化財包蔵地・御嶽や拝所等・伝統的な行事及び祭礼等の場等に及ぼす影響の程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・公有水面の埋立、飛行場及びその施設の設置、建設工事に伴う副産物の種類ごとの総発生量及び処理状況、工事の実施が廃棄物に及ぼす影響
変更後の主要な予測結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・景観資源の状況について、計画変更に伴い埋立土砂発生区域は縮小されることから、影響は変更前より低減される。 ・主要な眺望景観の状況について、辺野古前上原公園では、辺野古地先水面作業ヤード等の一部取り止めにより、影響は変更前から低減される。 ・他のいずれの予測項目の予測結果・評価も変更前と変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセス特性の変化については、工事車両等が主要道路を通ることは変更前と変わらず、区内等の人達については、主要道路を利用することなく、触れ合い活動の場へアクセスが可能であることから、変更前と同様にアクセス特性への変化は小さい。 ・他のいずれの予測項目の予測結果・評価も変更前と変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事や祭礼等の場等に及ぼす影響の程度については、計画変更に伴い辺野古地先水面作業ヤードによる改変がなくなることから、影響は低減される。 ・他のいずれの予測項目の予測結果・評価も変更前と変わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公有水面の埋立については、中仕切り護岸等の一部撤去により、コンクリートブロック、石材、繊維シートが発生するが、再利用するなど適正に処理・処分可能と予測されることから予測結果・評価は変更前と変わらない。 ・他のいずれの予測項目の予測結果・評価も変更前と変わらない。

- 技術検討会の資料の精査の過程で、主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、環境影響の予測に必要な資機材運搬車両等の稼働台数等の変更が必要となったことから、改めてシミュレーションを実施し、以下の項目の環境影響の予測等を行った。

大気質

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、資機材運搬車両等の運行台数、建設機械等の稼働台数、燃料消費量、造成面積に変更が生じるが、その程度は小さく、予測対象時期に大きな変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける大気汚染物質・粉じんの予測結果は、前回と同程度であり、環境保全の基準又は目標を下回る結果に変わりはない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

騒音、振動

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、資機材運搬車両等の運行台数、建設機械等の稼働台数に変更が生じるが、その程度は小さく、騒音・振動の予測対象時期に変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける騒音・振動の予測結果は、前回と同程度であり、環境保全の基準又は目標を下回る結果に変わりはない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

土砂による水の濁り

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、濁り(SS※)発生負荷量に変更が生じるが、その程度は小さく、予測対象時期に変更は生じない。濁り(SS)発生負荷量の総量は今回のシミュレーションの方が小さくなる。
- 今回のシミュレーションにおける濁りの拡散範囲・堆積に関する予測結果は、前回と同程度であり、大きな変化はみられない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

(※ SS : 浮遊物質質量 Suspended Solid 水中に浮遊する粒子径2mm以下の不溶性性固体の微粒子)

水中音 (ジュゴン等への影響)

- ・ 主要資材の月当たり必要量の見直し等に伴い、水中音の発生源である船舶の隻数が減少するが、水中音の予測対象時期に変更は生じない。
- 今回のシミュレーションにおける水中音に関する予測結果は、前回と同程度であり、大きな変化はみられない。
- よって、今回の評価も、前回と同様の結果となった。

第6回技術検討会を踏まえた予測評価の実施等について

結果

- 主要資材の月当たり必要量に関連した資機材運搬車両等の稼働台数等の変更の程度は小さく、今回のシミュレーションにおける各予測結果は、前回と同程度。また、環境保全の基準等を満足。
- 今回の予測結果の評価も「変更後の環境影響の程度は、変更前と比べて同程度又はそれ以下」となり、前回と変わらない。

(注) なお、今回実施した環境影響の予測・評価については、第23回環境監視等委員会の資料3-3(大気質)、資料3-4(騒音)、資料3-5(振動)、資料3-6(水の濁り)、資料3-7(水中音)に変更箇所を明示。

※上記のほかに、第23回委員会資料について以下を訂正。

- 資料3-3(大気質)P.19 (「辺野古集落・下り」と記載すべき箇所に「世富慶集落・下り」と記載していたため改め。)
- 資料3-4(騒音)P.10 (資機材運搬車両等の運行台数の推移グラフの表題を改め。)
- 資料3-4(騒音)P.14 (「ツミ」の営巣地点及び「オリオオコウモリ」の確認位置を追記。)
- 資料3-6(水の濁り)P.4 (「SCP施工範囲」「SD施工範囲」と記載すべき箇所に「浚渫範囲」「埋立地内」と記載していたため改め。)
- 資料3-6(水の濁り)P.4 (表2.5にボーリング地点「S-10」「S-17」を追記。)
- 資料3-6(水の濁り)P.13 (汚濁防止膜の追加展張をする期間を「5年次4ヶ月目～5年次8ヶ月」と記載すべき箇所に「5年次4ヶ月目～5年次7ヶ月目」と記載していたため改め。)
- 資料3-7(水中音)P.3 (音圧レベルの合成値がピークとなる時期のうち、代替施設東端で杭打ち工事行われる時期を「9年次1～4、6ヶ月」と記載すべき箇所に「9年次1～3、6ヶ月」と記載していたため改め。)
- 資料3-7(水中音)P.7 (捨石投入工事の施工箇所近傍での音圧レベルを「160dB以上165dB未満」と記載すべき箇所に「155dB以上160dB未満」と記載していたため改め。)

⇒ 上記の訂正によって、環境影響の予測・評価の結果は変わらない。